

「R2年度提言書」の「新たな総合戦略(2021改定版)」への反映状況

◆基本目標ごとの意見・提言への対応

番号	基本目標 (旧総合戦略)	旧総合戦略への 意見・提言の概要	新総合戦略 該当基本目標	新総合戦略 (2021改定版) への反映状況 (「記載内容」や現在の取組等)	部局
1	1 新しい人の流れづくり	個別の施策については数値目標をほとんど達成している一方、基本目標である「転入転出者数」は均衡にならず、最終的にはマイナスが大きくなっている。何か決め手になる施策が欠けているのではないか。 例えば「若者の『とくしま回帰』を生み出す大学等の活性化」については、全6項目とも100%達成である。この評価は正しいものだが、目標に対する政策項目の設定が、この6つで良かったのかという課題は残るのだろう。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	「第1期総合戦略」における取組成果と課題を踏まえ、「県政運営評価会議」をはじめ、各界代表者に加え地域や住民の代表者からなる「地方創生”拳県一致”協議会」や「新たな総合戦略」研究会」での御論議、御意見を踏まえ、2020年度(令和2年度)を初年度とする今後5カ年の目標や施策の基本的方向等をまとめた「新たな総合戦略」を策定いたしました。 特に「基本目標1」については、県内高校・高等教育機関卒業後の「県内定着率」向上や、県外進学した大学生など「20歳～24歳」の若者への対策をはじめ、魅力的な就労・生活環境の発信など、女性目線でのアプローチ、さらには、東京圏に加え、本県からの進学・転出者数の多い「大阪圏等」を対象にした施策展開の強化を図っており、引き続き、「新たな総合戦略」においても、「転入転出者数の均衡」の実現に向け、しっかりと取り組んで参ります。	政策
2	1 新しい人の流れづくり	関係人口、交流人口と実際の転入転出という人口移動は、密接に関係している。新型コロナウイルス感染症の影響で、都市生活者の意識や働き方等がドラスティックに変わる中、その状況変化をスピーディに把握し、関係人口と交流人口の増加施策に反映してほしい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	コロナ禍において都市生活者の意識が変わる中、新たなとくしま回帰の流れを加速化させるため、東京本部や関西本部の拠点機能や県人会等の人的ネットワークを活かし、地域と徳島に関心がある方とのマッチング支援の充実を図り、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出するように取り組んで参ります。	政策
3	1 新しい人の流れづくり	徳島大学における次世代LED研究のような、地方大学の魅力を高めるための産官学連携のプロジェクトを他分野でも新たに検討し、地域の将来を担う若者の流出の食い止めにつなげてほしい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、県が参画する「とくしま産官連携プラットフォーム」、「コンソーシアムとくしま」を核に実施する、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組の推進(P. 23)など、若者流出の食い止めに向けた施策を展開して参ります。	政策
4	1 新しい人の流れづくり	人口を増やすため、女性が徳島に残れるような仕事作り・職場環境の整備などの方策を考えてもらいたい。 また、農業関係に若い人が残れるように、学生・生徒の農業体験インターンシップの実施について拡大してほしい。	3 結婚・出産・子育てで「希望がかなう環境」づくり 1 「未来を担うひとの流れ」づくり	県では、女性の方が子どもを産み育てながら、安心して働き続けられる「子育てに優しい職場環境づくり」が必要であるとの認識のもと、「徳島はたらく女性応援ネット」を開設し、子育て支援制度の周知、啓発・意識改革の促進、事例紹介などを行うとともに、子育てに優しい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「はぐくみ支援企業」として認証・表彰する制度を実施するとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図るため、県内全域(13ヶ所)にファミリー・サポート・センターを設置し、保育所・幼稚園の開始前、終了後の「一時預かり」、「送迎」等を支援しています。この度の改定におきましては、仕事と子育ての両立支援のため、「企業主導型保育施設(事業所内保育所)」の設置促進をはかることとし、「施設設置アドバイザー活用による企業主導型保育施設設置数」を新たな目標として設定しています。 また、若者が農業関係の仕事を目指す機会を創出し、コロナ禍にあってもその取組を拡大するため、オンラインと直接体験を組み合わせた農業インターンシップに取り組んで参ります。	商工 農林
5	1 新しい人の流れづくり	「徳島ファン・ドラフト会議」の開催地については、東京都だけでなく、航空便のある福岡県や関西広域連合の地域も含めて、検討してはどうか。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	コロナ禍において感染症対策をしつつ、東京都だけでなく全国の「徳島ファン」とオンラインによりイベントの開催を行い、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出するように取り組んで参ります。	政策
6	1 新しい人の流れづくり	「デュアルスクール」のモデル試行について、新型コロナウイルス感染症の影響で都市から地方への分散化が進む中、地方の魅力を伝えるときに、この取組が生きてくると思うので、制度化に向けて進めてほしい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	平成28年度からのモデル試行による成果を経て、令和2年度より本格実施に移行しています。ポストコロナ時代を見据え、ワーケーションやリモートでの仕事に関心が高まる中、県内市町村と連携しながら多くの家族を受け入れることにより、本県の魅力を発信することにつなげて参ります。	教育
7	2 地域における仕事づくり	サテライトオフィスなど地域における仕事の創出が進んでいるが、徳島には魅力的な働く場所がないという若者の声を聞く。仕事は創出しているので、それを若い世代に発信するという一歩先を見据えた仕組み作りを行わなければならない。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	「新たな総合戦略」では、本県の企業・就職情報をはじめ、全国屈指の子育て環境や暮らしやすい生活環境、さらには、観光・イベント情報、歴史・文化など、ターゲットを明確にした魅力的な情報発信を行うとともに、近年、情報発信・情報受信ツールとして圧倒的に支持されているSNS(Instagram、Twitter、LINE等)、「とくしま若者応援サイトAWAIRO」などを活用し、県外在住者にもとより、県民に向けた効果的・戦略的な情報発信、広報活動の強化を図ります。 今後も、引き続き、若者に徳島由来の魅力を再認識してもらうため、訴求力の高い映像やWEB等様々な手法を活用し、若い世代にも響く情報発信を展開して参ります。	政策
8	2 地域における仕事づくり	若者にとって魅力的な仕事の内容は時代とともに変わってきている。現状の有効求人倍率が高いが、必ずしも若い人たちが働きたいと思う仕事とマッチングしていないのが実状ではないか。若者のニーズをしっかりと把握するためアンケート調査が必要ではないか。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	高校生・大学生を対象とした対話型集會「新未来セッション・NEO」を活用した意見聴取をはじめ、各分野ごとの施策展開において、様々な機会・場面を通じた意見聴取により若者のニーズ把握を行うとともに、県内新規卒業者等の就職を支援するため、正規雇用に向けた企業と学生等のマッチングの場として、新規大卒予定者を含む若年者や新規高卒予定者を対象とした就職面接相談会等を開催するとともに、徳島県就職支援情報サイト「ジョブナビとくしま」では、イベント情報や支援制度の情報発信に取り組んでいます。また、本県基幹産業である農林水産業については、「農林水産未来人材スクール」が核となり、若者をはじめ多様な人材の確保に向けて、魅力発信に取り組んでいるところです。 今後も引き続き、しっかりと若者の意見を汲み取り、地域を支える「魅力的なしごと」づくりに取り組んで参ります。	商工 農林 政策

◆基本目標ごとの意見・提言への対応

番号	基本目標 (旧総合戦略)	旧総合戦略への 意見・提言の概要	新総合戦略 該当基本目標	新総合戦略(2021改定版)への反映状況 (「記載内容」や現在の取組等)	部局
9	2 地域における仕事づくり	県南部で「きゅうりタウン構想」が地方創生の取組として注目されている。更なる付加価値の可能性を探るために、地元の特産高校と連携し、6次産業化を検討してはどうか。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	県では、海部郡で6次産業化に取り組む事業者と加工事業者、高校・大学等との連携を強化し、特産のきゅうりを用いた「きゅうりドッグ」や「きゅうりアイス」、もち麦を用いたみそやうどんのほか、未利用魚を用いた水煮などレトルト食品の開発等の取組みを支援しているところ。今後は、6次産業化に取り組む女性農業者を中心に、加工事業者や大学等とのネットワークづくりをさらに進めるとともに、異業種との交流を促進することで、地域資源を活用した南部ならではの6次産業化を推進して参ります。	南部
10	2 地域における仕事づくり	光科学の先端技術など光系教育について、大学と連携しながら、高校生以下の世代への魅力発信にも取り組んでいただきたい。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	県内の高等教育機関への進学促進や、光関連産業への就業促進に向け、県内高等教育機関が実施する光科学に関する先端的な研究や教育内容を、高校生等の皆さんへ分かりやすく情報発信するため、現在、「地方大学・地域産業創生事業」において、徳島大学等と連携し、中高生向けに、研究者による体験イベントやサイエンスカフェ等を実施し、光科学の魅力発信や関心の醸成に取り組んでいます。今後とも、さらに工夫を凝らし、中高生はじめ、県民の皆さんへその魅力が十分伝わるよう、取り組んで参ります。	政策 (教育)
11	2 地域における仕事づくり	クルーズ客船の寄港について、乗客や観光バスの往来で大きな影響を受ける地元との調整を密に行うとともに、おもてなしの面等で地元が協力できることがあるので、連携を図っていただきたい。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	クルーズ客船の寄港については、地元の皆様の御理解、御協力が必要なことから、これまで、地元への事前説明等を行ってきたところです。今後とも、地域の皆様が安心してクルーズ客船を迎えられるよう調整を行うとともに、市町村や地元の皆様と連携しながら、「徳島ならではのおもてなし」の充実を図り、とくしまファンになっていただくことで、徳島への再寄港につながるよう取り組んで参ります。	県土
12	2 地域における仕事づくり	農地には、農業生産の機能だけでなく、農村景観の維持、生物多様性の保全、洪水の低減といった機能もあるので、そういった観点にも配慮した上で、農地集積を進めてもらいたい。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	農業・農村は、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、景観の形成等の多面的機能を有しているため、基盤整備を伴う農地集積を行う際は、「徳島県田園環境検討委員会」での専門家の意見・指導等を踏まえ、環境配慮方針を策定・実施しているところ。引き続き、田園環境の保全対策に取り組んで参ります。	農林
13	2 地域における仕事づくり	「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録への施策について、「ふるさと納税制度」によるクラウドファンディングを活用した遍路道の整備や遍路小屋へのWi-Fi設置の取組は、徳島ならではの施策として高く評価できるので、引き続き、世界遺産登録に向けて施策を推進してもらいたい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり 2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	クラウドファンディングを活用した遍路道や遍路小屋の整備等については、これまでの取組成果を踏まえ、今年度策定予定の「徳島県文化財保存活用大綱」における文化財の修理や環境整備に対する支援策のひとつとして位置付け、市町村に取組として拡充するとともに、引き続き、NPO法人や民間団体の活動を支援するなど、「四国遍路」の世界遺産登録に向けた施策を推進して参ります。	未来
14	2 地域における仕事づくり	勝浦町における恐竜化石の発見については、非常に貴重な資源であり、集客力もある。文化の森総合公園での展示による児童等への教育をはじめ、様々な場面で積極的にこれを有効活用してもらいたい。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	国内最古級に相当する勝浦町の「恐竜化石」については、引き続き、発掘調査及び分析を推進するとともに、県立博物館「新常設展」の目玉展示の一つとして有効に活用して参ります。また、県内における移動展・イベントの開催や恐竜グッズ開発への協力などにより、恐竜情報を積極的に発信し、「恐竜王国トクシマ」の実現に向け、取り組んで参ります。	未来
15	2 地域における仕事づくり	総合戦略による雇用創出数累計4,000人は目標を達している。しかし、どのような職種に就いて収入を得ることができ、継続して仕事に関わっているか等の分析調査を行っていただきたい。	2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	「雇用創出目標」については、ライフスタイルに応じ多様化する働き方に沿った「就労の場」を確保していくことが重要であることから、「雇用の分野」を限定することなく、「全ての雇用形態」を含め「新たな雇用」の総数として設定しており、事業を実施した年の雇用創出数を実績として計上しております。また、事業外での雇用継続調査につきましては、雇用主に対し、負担がかかることへの御理解と御協力が必要となることから、その方法等については、今後研究して参りたい。 なお、「新たな総合戦略」でも、改めて「基本目標2」として「地域を支える「魅力的なしごと」づくり」を掲げ、KPIとして「すべての人々が活躍できる雇用の創出数 5年間で5,000人」を設定したところであり、引き続き、ひとが訪れ、「住みたい・働きたい」と思える地域社会の実現に向け、「徳島の強み」と「未来技術」を最大限に活用し、「地域の稼ぐ力」を高めるとともに、やりがいを感じることができる「魅力的なしごと」と「雇用機会」の創出を図って参ります。	政策
16	3 結婚・出産・子育ての環境づくり	子育て支援について、認定こども園の設置数は伸びており、施策全体的にはほぼ達成されている一方、待機児童数については解消されていないので、要因と課題をしっかりと分析し、子供を大事にする県として改善に尽力してほしい。	3 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり	待機児童が発生する要因については、保育ニーズの増加や地域偏在などが考えられますが、今後とも、待機児童の解消に向け、市町村における保育の受け皿確保のための施設整備や保育人材の確保にしっかりと取り組んで参ります。	未来
17	3 結婚・出産・子育ての環境づくり	待機児童について、希望の保育施設に入所を断られた場合、特に共働き世帯では、無理をしながらでも遠くの施設に入所している例もある。子育て支援の施策について実情を把握するための指標としては、待機児童数だけではなく、入所を断られた数も加味すべきである。	3 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり	待機児童数については、国の「調査要領」に基づき、保育の実施主体である市町村において、算出しております。まずは、待機児童ゼロを目指して、市町村や関係機関と連携を図り、保育環境の整備にしっかりと取り組んで参ります。	未来

◆基本目標ごとの意見・提言への対応

番号	基本目標 (旧総合戦略)	旧総合戦略への 意見・提言の概要	新総合戦略 該当基本目標	新総合戦略(2021改定版)への反映状況 (「記載内容」や現在の取組等)	部局
18	3 結婚・出産・子育ての環境づくり	待機児童について、新型コロナウイルス感染症で働き方が変化する中、小さな子供を持つ親の在宅ワークを推進することで、待機児童の削減につなげるような施策を検討してもらいたい。	3 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり	県では、「テレワークセンター徳島」を設置し、センター内の託児所を利用しながら受講可能な「テレワーカー養成講座」を実施しており、在宅ワークなどの多様な働き方を推進しているところです。今後とも、関係機関と連携しながら、待機児童の解消を図って参ります。	商工
19	3 結婚・出産・子育ての環境づくり	調査によると、県内や県出身の若者は、徳島での生活の魅力として、全体的な住みやすさを実感している。彼らが将来家族を持ったとき、帰ってきたいと思えるように、子供を産み育てやすい場所を今しっかりと整備すべきである。	3 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり	子どもを生み育てやすい環境づくりのため、とくしま在宅育児応援クーポンや産前産後の母親相談事業、チーム育児の普及啓発、子育てを応援する職場環境づくりなど、今後とも「子育ての喜びが実感できる環境」や「安心して子育てができる環境」の構築にしっかりと取り組んで参ります。	未来
20	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	徳島県版地方創生特区の指定については、国の動きを待つだけでなく、既存の特区の地域づくりを充実・深化させたり、特区の指定以外にも、徳島独自の特色ある問題解決の実践を幅広く支援したりするなど、県が率先して地方創生をどんどん進めてほしい。	4 安全・安心「持続可能な社会」づくり	「徳島県版地方創生特区」では、平成27年の第1次指定以降、令和元年度まで市町村の提案による地域の特性を活かした地方創生を支援して来たところです。今後とも、地域課題解決に向けて積極的に取り組む市町村に支援を行うなど、本県独自の地方創生実現につなげて参ります。	政策
21	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	女性管理職の割合は、県として実現しやすい目標ではないか。引き続き目標達成に向け取り組んでほしい。	4 安全・安心「持続可能な社会」づくり	女性職員の「幅広い経験」を通じた能力開発と、持てる能力を最大限発揮できる「働きやすい職場づくり」の両面から、女性職員のキャリアアップを後押ししながら、やる気と能力がある女性職員の登用を推進した結果、「管理職に占める女性職員の割合」は目標達成に向け順調に推移しているところです。多様化・複雑化する行政課題にスピード感を持って対応していくためには、女性職員の活躍は不可欠であることから、今後とも女性職員の登用に向けた取組みをさらに加速して参ります。	経営
22	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	小水力発電については、化石燃料や原子力発電に頼らない近い将来の自然エネルギーとして、普及促進すべき課題である。そのため、引き続き施策を推進してもらいたい。	4 安全・安心「持続可能な社会」づくり	小水力発電の導入を図るためには、地域における理解や協力、普及のための技術面・コスト面での課題解決が不可欠であり、地元自治体等の積極的な関わりや大学、民間企業等による地域に根ざした開発が必要であるため、企業局の持つ技術、知識、経営手法を最大限活用した導入支援により、産学官の連携等による先導的モデル構築を目指すこととしております。	企業
23	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	トップアスリートの育成強化について、中高体育大会での団体種目の入賞が少ないという結果が出ている。団体競技はいざ中学校で始めるとなっても、すぐにはできない地域がある。小学校の頃から指導を受けられるなど、児童が団体スポーツに取り組むことのできる仕組みをつくってほしい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	小学校の体育授業において、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」のボール運動の学習を通して、集団競技の攻防の仕方や技能を身に付けるよう指導しています。また、「あわすスポーツ・ブルーミング戦略事業」で小学校体育連盟と連携し、競技力向上中央講習会や郡市別講習会を実施し、小学校教員の指導力向上を図り、小学生の競技力向上を図って参ります。さらに、「はつらつサポート事業」で徳島ヴォルティスと徳島インディゴソックスの選手・コーチを小学校の体育授業に派遣し、集団競技の攻防や基本技術の向上を図るとともに、両チームの協力で、「走・跳・投・蹴」の動きを中心とした運動テキストを作成し、体力の向上や基本動作の習得を支援して参ります。加えて、県出身選手が全国大会や国際大会で活躍できるよう、中長期的な展望に立ち、優れた才能を持ったジュニア選手を発掘し、一貫した育成システムの充実を促進するとともに、子どもから大人までが参画できる拠点づくりや高度な専門的能力を有する指導者の育成を支援する「徳島育ち競技力向上プロジェクト」を実施して参ります。	教育
24	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	アスリートの育成強化について、国体や高校総体で結果を出すためには、マイナースポーツにも力を入れて強化するとともに、トップ選手に対するフォローについてどこに重点を置くべきか、方針を再検証することが必要ではないか。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり 2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	アスリートの育成・強化については、毎年、国民体育大会種目の41競技団体を対象に実施するヒアリングにおいて、課題やニーズを把握し、必要な支援に努めて参ります。また、トップ選手に対しては、オリンピック出場または国民体育大会等全国大会での活躍が期待できる本県関係選手の活動に必要な経費に対し補助を行っており、今後も、毎年競技実績等を考慮の上、有望選手に対する支援を積極的に行なって参ります。さらに、昨年設置した「徳島県国体飛躍対策本部」を中心に、関係機関・団体が一丸となり、抜本的な競技力向上策を戦略的かつ重点的に実施して参ります。また、県教育委員会では、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組む、科学的なトレーニングを実施することにより国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図って参ります。	教育 未来
25	4 活力ある暮らしやすい地域づくり	ふるさと納税について、財源確保の観点だけでなく、徳島ファンを広げるといった観点からも、全国へ徳島の魅力を発信するチャンスであるので、寄附金額の増加だけでなく、寄附件数も更に上げられるよう尽力してもらいたい。	1 「未来を担うひとの流れ」づくり	コロナ禍における県内事業者への支援や本県の魅力度向上のため、庁内の若手職員や関係団体で構成する「徳島ふるさと納税魅力化検討タスクフォース」を令和2年12月18日に設置し、「新たな返礼品の企画提案」「効果的なPR手法の検討」に取り組んでいます。また、これまでの「ふるさとチョイス」に加え、新たに「ANAのふるさと納税」サイトでのふるさと納税の受付を令和2年12月1日から開始したところで、引き続き、全国の徳島ファンの拡大、新たな寄附者の開拓に努めて参ります。	政策